

# シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

<<少子高齢化社会のなか、高齢者はもとより、これから年齢を重ねていくすべての方々が、豊富な経験や技術を活かし、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキイキと活躍していただける社会(生涯現役社会)づくりが望まれています。お元気な高齢者がたくさんいらっしゃることで、活気にあふれる地域社会となっていきます。そこで、おゲンキなシニア世代の方々に、シリーズでご登場いただきます。

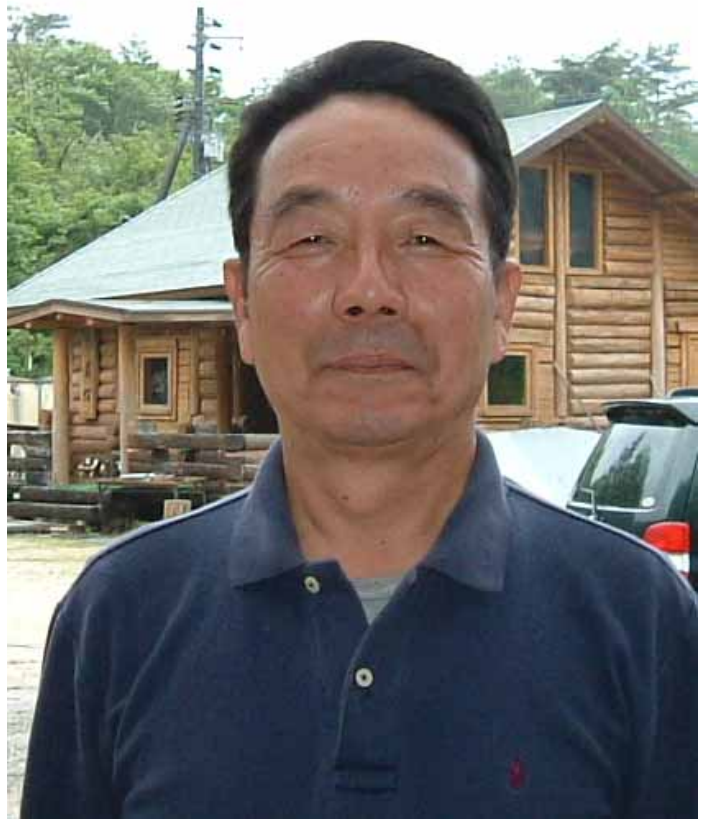
## 会社人から社会人への転身

川柳に『年金の/出る頃妻は/家を出る』、そして、退職される方の挨拶の多くは、「ゆっくり体力を回復して」「夫婦で旅行」「趣味を見つけて」「晴耕雨読」などなどの言葉。どれも個人の自由で、正しいと思います。しかし、現実を少し見てみませんか。会社を支え家族を支えてきた自負心が空虚になる姿が、目の前にありませんか。

「縦社会」の組織の中で活躍して頑張ってきたものの、自由になった日から、周りをみれば「自分の居場所がない」ことを痛感することにならないようにしたいものです。

ある日、突然、縦社会から帰宅された方が、毎日、あてもなく3食昼寝つきの生活をされるとどうなるでしょう。世に言う「濡れ落ち葉」「粗大ゴミ」「粗大生ゴミ」「熟年離婚」など、男性としては考えさせられます。しかも、地域社会を見回しても、行くところがないのです。

そういう私も、地域社会(横社会)に関わっていなかった自分を反省するばかりでした。60歳から平均寿命の80歳まで生きるとすれば、「どうする?セカンドライフ。」を真剣に考えなければ、自己崩壊し、家族や社会から取り残されることになってしまおうと思いました。



## あなたの居場所は、どこですか?

須々万ふれあいの森なんでも工房  
事務局長 **村田真博さん(63)**  
Masahiro Murata

### ふれあいの森活動の原点と今

私は、平成10年、会社人であった55歳の時、地域社会の状況を知る機会に恵まれました。そして、幸いなことに次の3点の動きに参画できるきっかけを得ました。

子ども社会の課題解決のために、家庭・学校・地域が協力して「元気に生きる子ども」にしたいと、国が総合学習・週休2日制度を答申しようとしていました。

急激な高齢化社会への課題もさまざまな機会で見ることができました。

私が住む須々万にある6万坪の「ふれあいの森」は、行政と地域が一体になり市民の憩いの森として整備されたのですが、実際は荒廃の中に取り残されており、何とかしたいといった地域の「つぶやき」がありました。

そこで私たちは、この「ふれあいの森」に焦点を当て、「森は人を育む・人が森を育む」の基本理念のもと、「元気な子ども元気なおとなを育

む森」を合言葉に、『子どもの居場所づくり』『おとなの居場所づくり』として、市民のふれあい交流拠点をつくることにしました。

大勢の皆さんが活用する森になれば、素晴らしい森に再生するでしょう。この活動に取り組むことで、大勢の仲間もできる、大勢の子どもたちにも生きる元気を提供できる、私も社会人として生きていける、何よりも大勢の皆さんから元気をいただける...、そう感じられました。社会と共に生きることが大切です。

以降、庶民感覚で自由に取り組みたい、「怪我と材料は自分もち、すべてが手弁当。」を唯一のルールに、行政の補助に頼らず、施設建設、機械工具から運営までを大勢の仲間と市民の皆さんの協力に支えられて手造りで活動してきました。今、年間7千人もの方に利用されるまでに成長し、県内でも例がない市民活動拠点と、自負しています。感謝感謝の、楽しい毎日です。